

万吉だより

MA

GECHI

NEWS

第35号 令和6年(2024)年12月

立正大学博物館の新たな節目

館長 佐多 芳彦

コロナ禍の影響等もあり、長らく滞っていましたが、この度、第35号を刊行するはこびとなりました。これまでお力添えを賜りましたみなさまに御礼申し上げますとともに、刊行の滞りにつきましてお詫び申し上げます。

さて、当館を取り巻く環境にはさまざまな変化がございました。

まず、社会的な状況の変化ですが、昭和26年制定の博物館法が、令和4年に改正されました。これまで大学博物館は、博物館相当施設として運営されてきましたが、この法改正により、大学博物館の登録博物館指定が可能になりました。現在、当館は博物館相当施設として、資料の収集・保存・展示・調査研究などを行っていますが、登録博物館として活動することも可能でしょう。また、バーチャルミュージアム（インターネット上でのみの資料公開）も登録博物館となることが可能となり、千葉県大網白里市の運営する「大網白里市デジタル博物館」が法改正後第一号として知られることとなりました（令和6年4月23日付）。さらに、これまでの博物館法では、社会教育施設としての役割が重視されていましたが、今後は文化芸術基本法に基づき、多様な活動を行う施設として、文化振興をも担うことになりました。このほか、デジタルアーカイブの推進、他館や他の文化施設との連携なども明示され、本館でもよりいっそう積極的な連携を探っています。

まずは、地元熊谷市との連携です。熊谷市立熊谷図書館は、「美術・郷土資料室」を所管しています。現在、当館の収蔵資料を出張展示するべく準備をしているところです。“郷土資料”として、熊谷校地の建設時に発見された発掘出土品（考古資料）の展示を行う予定です。

また、資料の貸し出しも積極的に行っています。主なものとして、館蔵「吉田格コレクション」から「殿ヶ谷戸遺跡」の石器、川口市石神貝塚出土の「ミミズク土偶」の貸し出しなど、地方自治体からの依頼の対応も行っています。そのほか、外部からの調査依頼にも対応しています。このような博物館活動は、コレクション（収蔵資料）を保存・管理してきたから可能なことであり、コレクションを「証拠」として保存することの大切さを物語っています。さらに、これらの活動を支える学芸員の存在も不可欠といえます。

さて、当館を所管する事務局としては、4月より博物館事務課が発足しました。これにより、各種調査依頼への対応や館務実習生の指導などが円滑に行われるようになりました。9月には実習生によるミニ展「立正大学のDOGU一土偶一」を開催することができました。また、夏期休暇期間やミニ展会期中、大学祭期間には土曜開館を行い、卒業生のほか地元市民も訪れるようになりました。

さらに、品川キャンパスに新たに開室したロータスギャラリー特別展示室が、当館の所管となっただけでなく、図書館・文書館・当館が学術情報セクターとして一体的に運用されることとなりました。これにより、学内での連携を行いながら、多様な展示を行うことができます。熊谷の収蔵品を品川校地で公開すること以外にも、図書館などの貴重資料の展示も可能となります。

熊谷・品川と一体となった博物館として、今後とも更なる発展を期して、邁進してまいりたいと思います。

事業報告（博物館）

館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のため館務実習生を受け入れました。

実習生は、文学部 6 名、仏教学部 1 名、法学部 1 名の計 8 名でした。

実習期間：8 月 6 日(火)～10 日(土)・

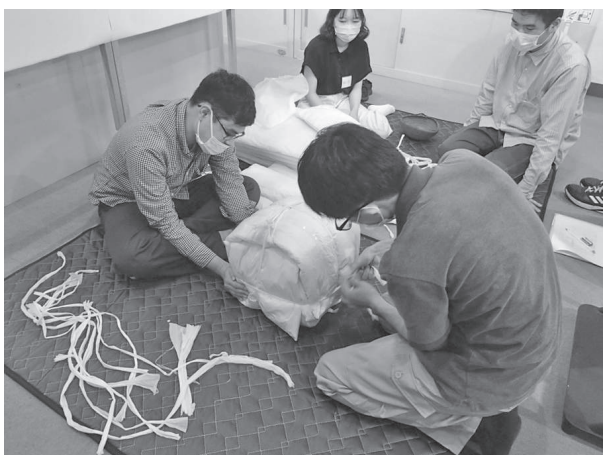
8 月 15 日(木)・16 日(金)(延べ 7 日間)

補講：9 月 2 日(月)

- 1 日目 文化史に関する講義と資料梱包の実習：井上尚明先生（非常勤講師）
- 2 日目 館長講話＝博物館と調査研究：佐多芳彦館長（文学部教授）
博物館施設見学（熊谷市立熊谷図書館・郷

土資料展示室）：紺野英二先生（文学部講師）

- 3 日目 考古資料の取り扱い：大谷徹学芸員
- 4 日目 古文書の取り扱い講義と整理：栗原健一先生（文学部講師）
- 5 日目 刀剣に関する講義と刀剣の手入れ実習：田嶋和久先生（文学部教授）
- 6 日目 資料の展示に関する実習：紺野先生・大谷学芸員
- 7 日目 資料の展示に関する実習：紺野先生
※台風 7 号の接近により午前中で作業中止
- 補 講 展示作業



1 日目（資料梱包）



4 日目（古文書の整理）



5 日目（刀剣の手入れ）



7 日目（資料展示）

ミニ企画展「立正大学の DOGU—土偶—」

会期 令和 6 年 9 月 18 日(水)～11 月 8 日(金)

（うち土曜開館 5 日）

夏期休暇期間中に行われた館務実習の一環として、館務実習生が当館収蔵品の中から土偶にスポットを当

て、より多くの方々に楽しんで頂けるよう、学生の目線から紹介するミニ企画展として「立正大学の DOGU—土偶—」を開催しました。

NEWS

ミニ企画展「秩父鉄道と立正大学」開催のお知らせ（予告）

会 期：令和 7 年 3 月 5 日(水)～4 月 7 日(月)

開館時間：午前10時～午後 4 時 土日祝日のみ午前10時～午後 3 時

※休館日等詳細はウェブサイトにてご確認ください

本学と産学連携協定を結んでいる、今年度設立125周年を迎えた秩父鉄道株式会社と、2025年度に旧専門部歴史地理科から創設100周年を迎える地球環境科学部地理学科を記念し、秩父鉄道の歴史を振り返りつつ、つながりの深い地理学科との地域活性化の取り組みを紹介します。併せて、本学がかつて運行した企画列車の

ヘッドマークやサボ（行先標）、記念乗車券などを展示するほか、秩父鉄道・本学図書館による貴重資料展示を行います。また、当館初となるフォトスポットの設置や、お子さまを対象とした「なりきり駅員さんの日（土日祝日のみ）」を実施します。

みなさまのお越しをお待ちしています。

事業報告（特別展示室）

立正大学図書館 第51回企画展「古今善本150選」

（会期 4）

会期 令和 6 年 4 月10日(水)～5 月13日(月)

2022年の開校150周年にちなみ、長い歴史の中で培われてきた蔵書から150点を厳選収録した『立正大学図書館 古今善本録～蔵書が伝える図書館 150 年の軌跡～』刊行を記念し、2023年10月から 本年 5 月まで企画展を開催しました。今年度の会期 4 では医学関連書、出島図・日本地図、グーテンベルク42行聖書等を展示しました。

文学部創設100周年記念展示「たゆまぬあゆみー收藏品で振り返る文学部のあゆみー」

会期 令和 6 年 9 月10日(火)～10月 1 日(火)

（うち土曜開室 1 日）

文学部創設100周年を記念し、記念講演を頂く坂詰秀一特別栄誉教授からの寄贈品を中心に、文学部地理学科時代からの收藏品、海外仏跡調査に関連した展示を行いました。9 月21日（記念講演・祝賀会）には特別開室を実施したほか、会期を通じて地下 1 階ギャラリー B（文書館事務課所管）との一体展示を実施しました。



「古今善本150選」（会期 4）

※立正大学図書館提供写真



文学部創設100周年記念展示

現代写真研究部創部50周年特別展示

会期 令和 6 年10月16日(水)～11月14日(木)

（うち土曜開室 1 日・日曜開室 1 日）

創部50周年を迎える現代写真研究部の記念展示を開催しました。大学祭期間中の土・日曜日には特別開室を行い、大学祭来訪者や同部卒業生等、多くの方にご来室頂きました。

令和 6 年度企画展 仏教学部卒業制作展
開催中 「存在／美」の発見に挑む

会期 令和 6 年11月26日(火)～7 年 1 月22日(水)

立正大学仏教学部では、仏教美術作品の模刻や模写を行う実習授業が行われており、そこでの学びは「卒業制作」という形で結実します。本展では、それらの卒業制作作品を紹介することで、模刻や模写という営みを通じて「文化」と主体的に関わることの意味を問いかけます。また、会期中の12月19日(木)には「古典彫刻を体験するー模刻プログラムによる教育の試みー」と題し、卒業制作の指導教員である秋田貴廣先生による講演が行われます。

時間：午後 6 時30分より午後 8 時まで

会場：品川キャンパス ロータスホール

運営委員会

令和 6 年度の博物館運営委員は、以下の通りとなります（敬称略）。

第 1 号委員（博物館長）佐多芳彦

第 2 号委員（学芸員）大谷 徹

第 3 号委員（学部長から 1 名）安中尚史

第 4 号委員（研究所長から 1 名）調整中

第 5 号委員（教職・資格教育センター博物館学芸員養成課程担当教員）小川義和

第 6 号委員（学識経験者から 1 名）米林 伸

第 7 号委員（博物館事務課長）草川文博

オブザーバー 鈴木厚志（担当副学長）

紺野英二（館務オブザーバー）

栗田美千也（学術情報部長）

令和 6 年度 第 1 回博物館運営委員会

日時 令和 6 年 5 月 8 日(水)午後 4 時より
(オンライン開催)

議題

I. 審議事項

1. 令和 6 年度 事業計画について
2. 学外館との共同研究について
3. その他

本学園が定める「第 2 次中期計画アクションプラン 3 - 5（立正大学博物館やロータスギャラリー特別展示室を活用した情報発信と社会貢献）」の実行主体（統括部署）について

II. 報告事項

1. 令和 6 年度 予算について
2. 令和 5 年度 事業報告
3. 令和 5 年度 決算報告
4. その他

当館が抱えている諸課題について

令和 6 年度 第 2 回博物館運営委員会

日時 令和 6 年 7 月 24 日(水)午後 4 時 10 分より
(オンライン開催)

議題

I. 審議事項

1. オブザーバーの指名について
2. 令和 6 年度 特別展示室展示計画（常設展・企画展）
3. 次年度展示スケジュールについて

II. 報告事項

1. 令和 6 年度 館務実習について
2. 館外収蔵品の燻蒸・移設について
3. 収蔵品の修復について
4. その他

学生・生徒の夏期休暇期間（8/1～8/31）中の土曜開館について

他館園視察レポートの提出について

※議事録は文書管理システムにて公開しております
(学内者のみ)



寄贈図書の梱包



燻蒸場所の密閉

館外収蔵品の燻蒸・移設作業（令和 6 年 8 月）

資料活用

◆館外利用

① 岩宿博物館 第78回企画展「岩宿Ⅱ石器文化からみた関東地方」

会期：令和5年10月7日(土)～11月23日(木・祝)

会場：みどり市岩宿博物館 企画展示室

資料：殿ヶ谷戸遺跡出土石器12点

熊ノ郷遺跡出土石器2点

約25,000年前の岩宿Ⅱ石器文化における石器群に焦点を当て、北・南関東地方の地域差から当時の自然災害などの環境変化と、それに影響を受けたと予想される当時の生活をテーマにした企画展が開催されました。

当館からは、吉田格コレクションの東京都国分寺市殿ヶ谷戸遺跡と熊ノ郷遺跡出土の石器が展示されました。吉田格氏(1920-2006)が「武蔵野台地の縄文式文化以前の遺跡」として報告した学史的に重要な遺跡です。日本の旧石器時代研究を牽引した東北大学の芹沢長介氏(1919-2006)により「切出形石器」の典型的な例と位置づけられた資料です。

② 鳩山町 国指定記念特別展「南比企窯跡展～二百年営まれた窯跡はじまりからおわりまで～」

会期：令和6年3月4日(月)～3月31日(日)

会場：鳩山町多世代活動交流センター 3階L2集会室

資料：南比企窯跡群出土遺物19点

東金子窯跡群出土遺物11点

南比企窯跡国指定史跡1周年を記念して、南比企窯跡群の始まりから終わりまでの窯跡群の移り変わりから見た、奈良・平安時代の窯業生産や社会の実態を考える特別展が開催されました。

当館からは考古学研究室が昭和30年代から50年代かけて調査を実施した南比企窯跡群(新沼窯跡・鶴巻窯跡)と東金子窯跡群(新久窯跡・八坂前窯跡)の須恵



国指定記念特別展「南比企窯跡展」

器や瓦、瓦塔などが展示されました。

③ 芝公園サービスセンター「芝公園の歴史 展示会」

会期：令和6年8月16日(金)～10月中旬

会場：港区みなと図書館 2階展示コーナー

資料：「伝芝公園出土人物埴輪」写真

みなと図書館2階の展示コーナーに芝公園のこれまでの歴史や変遷に関する資料や写真を展示した「芝公園の歴史 展示会」が開催されました。当館からは伝芝公園出土人物埴輪の写真パネルが展示されました。帽子を被った男子埴輪ですが、顔の表現や胎土などの特徴から、この埴輪は埼玉県鴻巣市の生田塚窯跡群で製作され、河川交通によって供給されたものと考えられています。



「芝公園の歴史 展示会」

④ 立正大学文学部創設100周年記念展示「たゆまぬあゆみー收藏品で振り返る文学部のあゆみー」

会期：令和6年9月10日(火)～10月1日(火)

会場：立正大学ロータスギャラリー特別展示室

資料：東谷桃園画「埴輪」

大正13年(1924)に創設された文学部は、令和6年(2024)、創設100周年を迎えました。6万人を超える学生と教員たちが共に学びを積み重ね、培ってきた数多のものから、ギャラリーが所蔵する坂詰秀一先生(本学特別荣誉教授 仏教考古学・考古学史)の寄贈品などが展示されました。当館からは開館当初、坂詰先生から寄贈された東谷桃園画「埴輪」を出展しました。

この作品は、従軍画家として知られる東谷桃園(1893-1976)が描いた水彩画で、やさしい眼と温かな膚色の色合いが印象的な作品です。この作品のモデルとなった埴輪は、現在東京国立博物館所蔵の「椅子に腰かけた女子」(重要文化財)です。この埴輪は、群馬県邑楽



東谷桃園「団輪」(水彩画：39cm×31cm)

郡大川村（現在の太田町）大字古海から出土したもので、昭和7年（1932）6月27日に好古家として知られる相川之賀（1866－1950）から博物館が購入した記録が残されています。このことから昭和7年以降の制作であることが分かりますが、正確な制作年は不明です。おそらく東谷が勤務した東京市立第一実科高等女学校も博物館の付近にあることから、帝展に作品を出品していた昭和10年前後の作品でないかと考えられます。

【東谷桃園：あずまや とうえん】 明治26年（1893）三重県生まれ。本名は東谷俊蔵。大正2年（1913）東京美術学校画家師範科入学（現在の東京藝術大学）。大正5年（1916）同校卒業。山内多門（1878－1932）に師事。大正13年（1924）6月から東京市下谷区池ノ端茅町の東京市立第一実科高等女学校（後に市立忍岡高等女学校に改称）の図画教員として奉職。昭和5年（1930）第11回帝展に「晴日」が初入選し、昭和9年（1934）第15回帝展に「峠」、昭和11年（1936）改組帝展第1回に「山の娘」が入選し、日本画家として活躍した。日中戦争開戦後の昭和14年（1939）3月26日に応召され、従軍画家として中北支蒙疆満鮮に亘り2か月半随行し、6月10日に帰還。その際の作品として「蘇州虎丘」、「大同石仏」などの作品がある（船の科学館所蔵）。戦後は、昭和24年（1949）に出版された鳥生芳夫著『私たちはこうして学校図書館を作りました』（万世書房）の挿絵などが知られる。昭和51年（1976）、83歳で死去。

◆館内利用

① 神奈川県朝日遺跡の旧石器の研究

朝日遺跡は、箱根山黒曜石原産地である芦之湯や畑宿に近接する旧石器時代遺跡で、昭和36年（1961）に立正大学考古学研究室と芦刈研究会によって発掘調査が行われ、黒曜石製のナイフ形石器などが出土した学史的な遺跡です。現在、石器の実測などの基礎作業を継続しており、ゆくゆくは『館蔵資料「基礎文献」叢刊』としての刊行を目指しています。

② 茨城県浮島前浦遺跡の縄文土器の研究

霞ヶ浦南岸に所在する浮島前浦遺跡は、古墳時代中期の水辺における祭祀遺跡として著名ですが、昭和42年（1967）の発掘調査の際に出土した縄文時代後晩期の遺物については、諸般の事情で未報告になっています。現在、浮島前浦遺跡研究会のメンバーを中心に、遺物包含層から出土した縄文土器や製塩土器の分類作業が継続的に進められています。今後の調査の進展に

より、霞ヶ浦沿岸における製塩遺跡の様相解明に寄与することが期待されます。

③ 須恵器窯跡出土の凸帯付四耳壺の研究

長野県内の須恵器窯跡から出土した「凸帯付四耳壺」の研究のため、長野県八重原窯跡出土須恵器、及び関連資料として埼玉県八坂前窯跡出土須恵器の資料調査が実施されました。かつて坂詰先生が、千曲川流域古窯跡の実態解明を目的に調査を実施した長野県御牧ノ上窯跡・若宮窯跡などの資料の熟覧も併せて行いました。

④ 吉田コレクション 伊藤圭介蒐集石器の研究

わが国初の理学博士にして本草学者として著名な伊藤圭介（1803－1902）の蒐集石器は、当館所蔵品のなかでも学術的価値の高い資料です。江戸時代の本草学が、近代の考古学や博物学に大きな影響を与えたことを物語る貴重な資料と言えます。

◆資料紹介

ここでは、館蔵資料に関する資料調査をもとに発表された著作や論文などの研究成果を紹介します。

① 千葉県香取市城ノ台北貝塚

金子直行「縄文早期中葉のいわゆる「城ノ台北式土器」について－城ノ台貝塚第5類土器の提起する諸問題－」『土肥孝追悼論集 煙草と縄紋と考古学』2023年

11月6日 土肥孝追悼論集刊行会 P145～P160

城ノ台北貝塚資料の再整理をもとに「城ノ台北式土器」の型式内容の整理と類例の分布状況から、その独自性と貝殻条痕文系土器群への移行期の様相についてまとめられています。

② 神奈川県横浜市野島貝塚

浪形早季子『横浜の遺跡シリーズ2 横浜市金沢区
野島貝塚－環境変動にみる縄文早期の人々』2023年
3月31日 公益財団法人 横浜市ふるさと歴史財団
〈A5版87頁 カラー〉

野島貝塚は横浜市最古の貝塚で、「野島式土器」（縄文時代早期）の標識遺跡です。野島遺跡の調査は古く、戦後すぐに行われ、昭和22年（1947）には吉田格氏も発掘調査を行っています。本書には、当館所蔵の吉田コレクション、野島貝塚出土の鹿角製大型釣針とアカガイ製貝輪について紹介されています。本書は考古学的な研究成果以外にも、古代DNA分析などの自然科学分析による最新の研究成果も豊富に掲載され、古環境の復元や海産物資源の利用の様相が詳細に解説されており、野島貝塚を知るための必携の書です。

③ 千葉県千葉市新田山遺跡

小林 嵩・植木雅博「千葉市の弥生土器」『千葉いまむかし』第36号 2023年3月24日 千葉市教育委員会 P71～P87

昭和16年（1941）に千葉市坂月町の新田山遺跡から吉田格氏らによって発見された当館所蔵の弥生時代中期前葉の壺形土器2点と、翌年明治大学の杉原莊介氏（1913－1983）が近接地を調査した際に出土した壺形土器などについて、再検討が行われました。

これらの資料は、弥生時代研究者の杉原氏によって弥生式土器の「須和田式土器」の具体例として初めて紹介された学術的に重要な資料です。また、出土土器の検討から、遺跡の性格については再埋葬の可能性が指摘されています。

刊行物

『立正大学博物館年報20』

令和3年度の博物館の事業等を報告した年報を令和4年6月15日に刊行しました。

〈B5版30頁 モノクロ〉

施設見学

① 令和5年12月7日（木）熊谷市吉岡公民館「ふれあい学級」（34名）

② 令和6年10月10日（木）熊谷班退職校長会（14名）

当館では施設見学の申し込みを随時お受けしております。

ご希望がありましたら、お気軽にどうぞご相談ください。



埼玉博連スタンプラリー

埼玉県博物館連絡協議会 東部・北部ブロックでは、彩の国ミュージアムスタンプラリーとして全加盟館・23館において、8月1日（木）～9月29日（日）にかけてスタンプラリーを実施しました。加盟館を見学し、6館達成すると埴輪貯金箱か、オリジナルトートバックが、3館達成するとシャープペンシルが景品として贈られます（中学生以下を対象）。

当館では、3館達成者2名の方に景品を差し上げました。

夏休み期間中は土曜日も開館し、「あそびにおいでよ！近くて涼しいハテナの世界」をキャッチフレーズに、スタンプラリーへの参加を呼びかけ、多くの来場者がありました。

収蔵環境の整備

令和6年度事業として、館外（旧5号館）収蔵品の燻蒸・移設作業を8月6日（火）～9月5日（木）にかけて実施しました。大学夏期休暇に伴う一斉休暇期間にあわせて実施したもので、寄贈図書を中心に密閉燻蒸し、燻蒸後図書の清掃を行い、熊谷図書館の書庫に移設しました。蔵書登録後、開架閲覧できるようになる予定です。また、収蔵品のうち社会要請の高いものについては、しかるべき調査・閲覧環境を整えた上で、積極的に開示していきたいと考えています。

利用案内

■ 博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

立正大学熊谷キャンパス内

開館時間：午前10時～午後4時 入館無料

開館日：月・水～金曜日

休館日：火・土・日曜日・祝日および大学休業日

※企画により特別開館日・休館日がございます。

最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。

交通機関

- ・熊谷駅（JR 高崎線、新幹線、秩父鉄道）

熊谷駅南口より国際十王バス立正大学行または森林公園駅行に乗車（約10分）

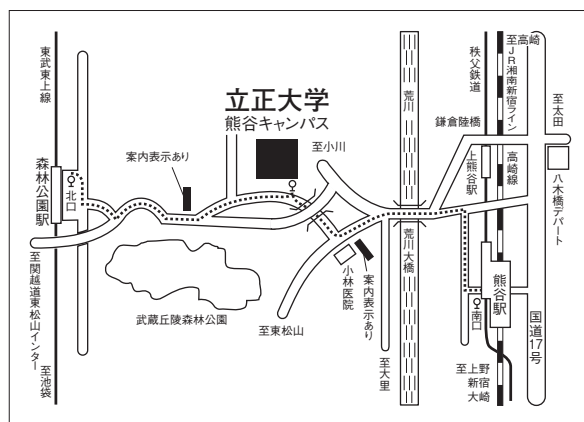
立正大学下車

- ・森林公園駅（東武東上線）

森林公園駅北口より国際十王バス立正大学行または熊谷駅行に乗車（約12分）

立正大学下車

ウェブサイト <https://www.ris.ac.jp/museum/>



■ ロータスギャラリー特別展示室

〒141-8602 東京都品川区大崎4-2-16

立正大学品川キャンパス150周年記念館内

開室日 火～金曜日 午前10時30分～午後4時30分

・時間（入室は午後4時まで）

予約不要・入場無料・見学自由

※企画により特別開室日・休室日がございます。

また春期・夏期は開室時間の変更となります。

最新の情報はウェブサイトにてご確認ください。

交通機関

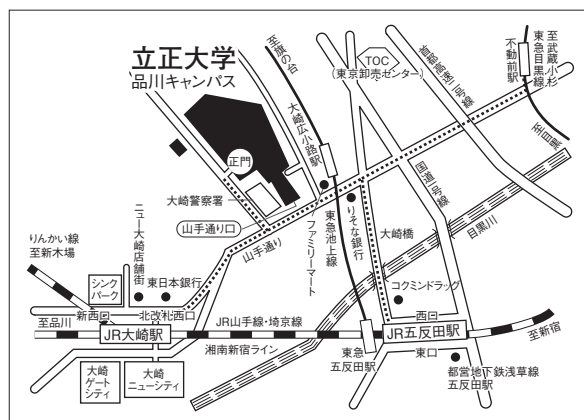
- ・大崎駅（JR 山手線・湘南新宿ライン・埼京線・りんかい線）

- ・五反田駅（JR 山手線・都営地下鉄浅草線）

各徒歩5分

- ・大崎広小路駅（東急池上線）より徒歩1分

ウェブサイト https://www.ris.ac.jp/introduction/outline_of_university/lotusgallery/index.html



あとがき

MLA 連携による推進活動の一環として、令和6年4月から新しく博物館事務課が設置され、館長、博物館事務課長、学芸員、事務員の4名体制になりました。これまで以上に活発な展示・広報活動やレファレンス機能の充実に力を入れていきたいと思っております。

ご来館を心よりお待ちしております。

（大谷）

※MLA 連携：博物館（Museum）、図書館（Library）、文書館（Archives）の間で行われる種々の連携・協力活動

立正大学博物館館報 万吉だより 第35号

令和6年（2024）年12月25日発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL 048-536-6150

FAX 048-536-6170

E-mail: museum@ris.ac.jp

URL: <https://www.ris.ac.jp/museum/>

題字揮毫 田淵観斎（立正大学名誉教授）
（印刷：株式会社イーフォー）